

年（一九三〇）十二月十六日、新立合併）、全但銀行（昭和十六年（一九四二）五月三日、新立合併）、神戸銀行（昭和二十年（一九四五）三月、吸収合併）の竹野支店として営業を続けてきた。

昭和二十九年（一九五四）七月三日、神戸銀行が営業を譲渡して香住銀行竹野支店となった。同三十一年九月二十四日、香住銀行は称号を但馬銀行に変更した。現在の店舗は昭和五十三年（一九七八）四月に改築した。  
但馬信用金庫竹野支店

大正四年（一九一五）三月に有限責任信用組合豊岡同栄社が豊岡市に創設され、同年八月一日に営業を開始、同十四年（一九二五）一月十四日には有限責任豊岡信用組合に改称。昭和二十五年（一九五〇）四月一日、中小企業等協同組合法に基づき信用協同組合に変更し、その翌年六月十五日信用金庫法が公布され、同年十月二十日には但馬信用金庫に組織変更がなされている。同四十九年（一九七四）十二月三日、新本店竣工式及び創立五十周年記念式典が挙行され、それから十年を経た同五十九年（一九八四）五月十四日に竹野支店の開設をみた。

### 第三節 窮乏から繁栄へ

#### (1) 欠乏を乗り越え復興へ

食糧難を 供出はきびしさを増し、食糧緊急対策本部が発足し、各村に食糧調整委員会が設けられ供出割  
乗り越える 当にあたることになった昭和二十二年（一九四七）十二月、奥竹野村役場から各地区の駐在員・

農会長・食糧調整委員あてに次の通知が出された。

昭和二十二年産米（雑穀を含む）

供出促進に関する依頼

昭和二十二年産米（雑穀を含む）については、十五日現在七九パーセントにして（中略）、兵庫県軍政部よりの厳命もありますので、今年内に完納方特段の御配意（中略）、尙軍政部指示による米・甘藷の個人別割当及供出成績を揭示板に揭示方必ず御願ひ致します。

インフレと 軍需補償金の支払いと工業生産の財政投資のために、  
新円生活 日本銀行券の発行高は急膨張し、悪性インフレーション

ンが進行していった。昭和二十一年（一九四六）二月十七日、金融緊急措置令が公布された。新円切換えにより預貯金はすべて封鎖された。

封鎖預金の払出し方法が改正され、五月に奥竹野村農業会から地区惣代に通知が出た。月一人百円までの払出しは同じであるが、世帯員の所得合計が月二〇〇円にならない世帯には不足分を加算して払出せる、その時同惣代の証明書がある、ということであった。

生活改善 昭和二十三年（一九四八）にはいると、七月には第一次封鎖預金が解除され、九月にはマッチ  
申合規約 が八年ぶりに自由販売となり、十月には電球・歯みがき粉・万年筆など一一種のⒺ廃止とな

り、十一月には米の増配で一人一日二合七勺となった。この状態のおり、昭和二十四年二月に、奥竹野村生活



写257 買出し列車（『昭和史』12）

改善委員会が開かれ、審議のすえ「奥竹野村生活改善規約」をつくり、三月一日から実施することにきまつた。次に、結婚の項だけをかかげておく。

奥竹野村生活改善規約

結婚について

- 1 結婚は本人の意志を尊重すること
- 2 結婚に際しては健康診断書、戸籍謄本を交換すること。
- 3 結婚後、速かに戸籍手続をなすこと。
- 4 こぶしかためは熨斗のし扇子を納めるに止とどめる、但し酒一升に代えることを得。
- 5 結納は最高三千元以内とする。
- 6 調度品は手まわり必需品にとどめ、みやげ物及菓子全廃。
- 7 儀式は夫婦間の三々九度の杯を中心とし、参列者は少人数にとどめる。
- 8 披露宴は少人数にとどめ、料理は膳の上、酒は一人一合、但し新客は膳の外最大三品とす。

(下略)

(2) 災害とその対策

繰返す大型 昭和二十年(一九四五)九月十七日、十八日、枕崎まくらざき台風。  
台風の襲来 同二十五年(一九五〇)九月三日、ジェーン台風。『奥竹野村村勢調査書』による被害は、堤

防一三方所、橋梁流失一〇カ所、道路決壊四カ所、田流失埋没二町、田冠水五町。三椒村は三原古川の井堰いせき復

旧工事を施工した。中竹野村では、当初羽入橋・阿金谷橋・小丸橋・下塚橋を同時に着工するよう申請していたが、翌二十六年度施工として阿金谷橋・羽入橋の認証を得た。竹野村は、須井中田井堰三五万円、須井大名屋敷井堰二九万円、竹野須谷井堰一五〇万円を、同二十七年において指令前に着工復旧した。

同二十六年（一九五二）十月十四日、ルース台風。奥竹野村の被害は、家屋半壊四戸、小破二五戸、水稻の被害米四七石。竹野村では、竹野字釜石の道路五〇メートル（工費二二万円）、奥須井字カヤノの橋梁一八メートル（工費二四万九〇〇円）を同年度県補助で施工した。田久日漁港復旧工事は同二十八年度に着工することに議決したが、「全体計画の完了を見なかった」ため翌二十九年度に、さらに同じ理由でその翌年に繰り越し、結局同三十年度に八〇万円の一時借入をして施工した。

同二十八年（一九五三）九月二十五日、十三号台風。三椒村の被害は、段銅山線の道路復旧工事と段川の河川復旧工事で、工費は五〇万二〇〇〇円、翌二十九年年度施行。同二十九年（一九五四）九月二十六日、十五号台風（洞爺丸）。同三十一年三月議会で竹野村長山本匡は、「竹野川・須井安木線・出合橋・川崎橋・太田川・轟松本線・椒川・銅山橋線の災害復旧工事費充当のため昭和三十年度に七〇万円の起債を専決処分した」（竹



写258 伊勢湾台風（轟橋）



写259 第二室戸台風（羽入橋）

野村議會議員録」と報告している。

同三十四年（一九五九）九月二十六日、十五号台風（伊勢湾台風）は中心気圧九三〇ミリバール、最大風速四八メートルで猛威をふるった。大森小学校は、校地もろとも建物を流されてしまった。各方面からの「見舞金配分表」によると被害は次のようであった。死亡者一人、負傷者一人、家屋流失三戸、全壊一戸、半壊九戸、床上浸水二三戸、稲皆無一二町五反、木材流失二〇石、炭がま壊滅三〇基、仮橋架設一八地区五六〇戸、崩れ土除去一〇地区二九〇戸、竹野浜地区流木整理。

この大災害に対して、町は早速被害者の救援にのりだした。十月十五日、竹野町長木下徳造は議会を召集し、「罹災者に対する町税を減免する条例」についてはかった。議会に災害対策特別委員会を設置、三月には、町負担の復旧費にあてるため、一〇〇万・八三〇万・三五〇万・三三〇万円の起債を決めた。

町内各団体も救援にたちあがった。災害救助法によって、国から衣類や食糧が ok られた。日赤からも届けられた。兵庫県をはじめ、他の府・県・市・町から見舞金が届いた。今回の見舞は、福祉事務所・共同募金会・新聞社・大阪竹野人会等々、全国民の善意のあらわれであった。その集計が、第一期は六〇万七五〇九円、第二期は六三三万六四三八円にのぼった。

同三十六年（一九六一）九月十六日、台風十八号（第二室戸台風）。竹野町内の被害は、家屋では、全壊した住居四と非住居一八、半壊した住居一八と非住居一六、床上浸水九。橋梁破損は一五カ所。稲作では冠水五六町二反、倒伏三三町五反、稲木倒壊五五四架。以上のうち人体と家屋については、門谷の被害が目立ち、橋の破損は大森・小城に多く、稲田の被害は桑野本・森本・林・下塚・轟・鬼神谷に多かった。竹野町では、罹災者に対し町税を減免する条例を制定した（十月三十日可決）。

豪雪との たたかき 昭和三十八年（一九六三）一月～二月は、「三八豪雪」といわれる記録的な大雪であった。二月四日から八日にかけて、所により二二〇～四〇〇センチの積雪になった。竹野町雪害対策本

部の調査によると、重傷二、軽傷二。住宅全壊三、半壊三、一部破壊一四、非住宅の全壊一七、半壊一四。孤立地区六。プロイラーと牛乳の輸送が不能におちいった。損失見込七六四八万円。除雪のために借上げた機械は、ブルドーザー六〇回、ダンプも六〇回で、除雪経費は四八〇万円、とある。

椒小学校の焼失 昭和二十三年（一九四八）二月二十三日、下村に火災が発生し一一戸が全焼した。翌

二十四年七月八日、椒小学校が全焼した。さっそく七月十二日、三椒村長田中規矩雄は村議会に椒小学校新築案を提



写260 三八豪雪（竹野駅前）

出し可決を得た。

災害対策の推進 災害救助法の公布により、竹野村（村長木下徳造）は昭和二十三年（一九四八）五月二十九日の推 進 に、北但地区災害救助隊竹野村支隊編成要項を制定した。その内容の概略は次のとおりである。

構成は支隊長（村長）・部長・分隊長・隊員。任務は知事の指揮を受けて行なう災害救助其の他緊急措置について、北但地方事務所長の支配のもとに北但地区災害救助隊を補助協力し第一線において活動する。また水防法の施行に伴い、竹野村は昭和二十六年（一九五一）三月三十一日に、水防管理のために竹野字釜石に水防小屋（木造瓦葺平家建一〇坪）一棟を設置することを議決した。

### (3) 社会福祉の向上

竹野町国民健康保険 竹野村は、昭和二十三年（一九四八）十月に竹野村国民健康保険条例を制定した。奥竹野村は、健康保険 「昭和二十四年六月、国民健康保険事業と併行して森本診療所業務を開始」した（『村勢調』。三

椒村の場合は同二十五年（一九五〇）十一月、「一時中止なりし国民健康保険を復活したい」と提案し、同二十七年（一九五二）一月に保険条例と保険税の条例を制定した。合併後、同三十年（一九五五）三月に竹野村は条例を、同三十四年（一九五九）五月に竹野町国民健康保険条例を制定した。

同四十七年（一九七二）度の加入状態は、世帯数九八二で加入率約六三パーセント、被保険者数三五六四人で加入率五五パーセントであった。それが同六十年度になると、九五八世帯約六〇パーセント、二九〇九人約四四パーセントとなった。国民健康保険税を一人平均でみると、前者は五四三六円、後者は三万五五四二円であった。

(以下診療所については、第五章第一節 竹野町の誕生、「竹野町の医療」を参照)

国民年金 昭和三十四年四月に、国民年金法が公布され十二月に実施された。七十歳以上には無拠出で老  
の支給 齢年金や障害年金が支給された。拠出制年金は、同三十六年(一九七二)四月から保険料納付が

始まり、同四十六年四月から支給が行なわれた。

社会福祉 昭和三十年(一九五五)三月、竹野村社会福祉協議会ができた。その後同五十年(一九七五)  
協議会 四月、社会福祉法人と登記された。会員は任意制であ

るが、町民の理解によってほぼ全世帯の加入をみるようになった。さら  
らに、同五十八年、竹野町老人福祉センター(ふれあい会館)の竣工  
を機に、そこを本拠として多岐にわたる活動を進めてきた。おもな活  
動状況は次のとおりである。

一、在宅福祉活動

- 1 食事サービス
- 2 入浴サービス
- 3 機能回復訓練
- 4 看護用品あつせん
- 5 家庭奉仕員活動
- 6 福祉車による移送

二、ボランティア活動

- 1 ボランティアセンター
- 2 ボランティア連絡会
- 3 ボランティアの在宅サービス



写261 ふれあい会館



三、一般福祉活動

1 葬具の貸出

2 クリーン作戦

3 心配ごと相談

4 結婚相談

5 福祉資金貸付

6 善意銀行の運営

7 共同募金

8 歳末たすけあい運動

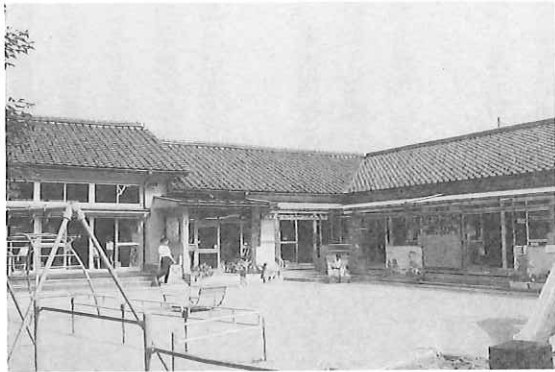
伸びゆく 昭和二十一年

福祉行政 度竹野村の決

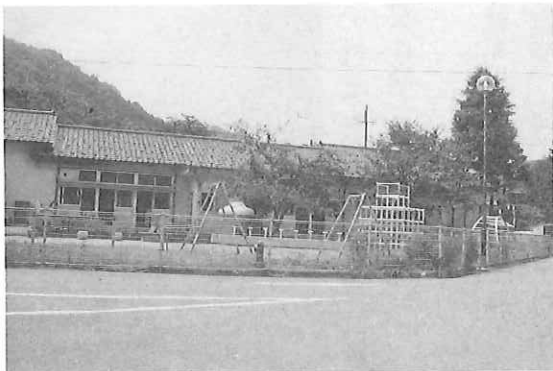
算書のうち厚生費をみると、

救護費では母子保護費六一二円、医療保護費七二円、生活保護費四二名分五一〇円、生活保護医療費五〇〇円、生活保護助産費一一〇円、生活保護生業費三〇〇〇円、生活保護葬祭費一名分一〇〇円であった。託児所費四二〇円、方面委員会費七五円、民主委員会費二六五六円、民生委員推薦委員会費一五〇円、厚生諸費生活困窮者用人夫賃として二一円が支出された。

同二十一年九月生活保護法が制定された。竹野村では、同二十八年（一九五三）六月現在の保護適用者数は



写262 町立竹野保育所



写263 町立森本へき地保育所

男一名、女二〇名であった。

同三十六年（一九六一）十月、竹野に私立竹野保育園が設立認可された（設立者・賀嶋義隆氏）。この保育園は、同三十八年十月に町に移管され同四十六年場所を東町に移転した。同四十四年（一九六九）七月、森本に森本へき地保育所が開設された。

同四十年四月一日、竹野町立竹野児童館が和田に開設された。児童福祉法および児童憲章の理念に基づき、児童の心身の健全な育成をはかるため、生活指導・余暇指導・子ども会育成・各種の相談・その他の事業を行なってきた。右の児童館活動のほかに、地区行事・一般事業を実施して、年間延べ利用者は九三〇九人（昭和六十三年度）であった。

同三十八年（一九六三）八月に、老人福祉法が施行された。六十五歳以上の老人が全人口に対してどのような割合かという高齢化率をみると、同三十五年約九・五%、同四十五年（一九七〇）約一二・三%、同五十五年（一九八〇）約一五・七%で次第に高くなってきた。

(4) 保健衛生の伸展

簡易水道 簡易水道については、大正四年（一九一五）四月、中竹野村和田に工事一七〇円、同年五月同の整備 村松本に一五〇円の県費補助を受けて水道を敷設した

（「城崎郡役所事務録」）。同十三年度、竹野村は奥須



写264 町立竹野児童館

第三節 窮乏から繁栄へ



写265 竹野簡易水道水源地（鬼神谷）



写266 ごみ焼却場（青井）

井に簡易水道を新設した。工事費二八八五円、用地費・設計費・監督費で九〇円、諸雑費四九円で合計三〇二四円。この収入源は県補助金一二三七円、地元寄付金五〇〇円、前年度繰越金一二八七円であった。

終戦後、各地区の簡易水道が順次改修または新設された（表148参照）。

表148 簡易水道、特設水道の状況

水道名	竣工年月日	給水人口	年間給水量
奥須井	昭和29年3月31日	73人	7,320m <sup>3</sup>
浜須井	30. 9. 30	195	14,630
三原	31. 3. 31	204	11,780
小城	31. 7. 25	82	6,670
中村	32. 3. 31	83	6,740
須谷	34. 3. 31	194	13,980
床瀬	38. 9. 28	153	10,260
竹野地区	55. 3. 31	4,144	739,510
森本地区	45. 7. 20	738	73,013
大森地区	46. 6. 30	394	32,245

(昭和62年版『竹野町勢要覧』)

環境衛生 環境衛生 環境衛生 環境衛生 環境衛生  
 の向上 きた。同四十一年（一九六六）からは須井で不燃物を処理した。同五十年（一九七五）、青井に一日一五トンの能力で焼却施設を新設した。

同四十二年度、豊岡市高屋に豊岡市・城崎町・竹野町・日高町・出石町及び但東町の一市五町の火葬場並びに霊きゅう自動車共同設置され、翌四十三年一月から施行された。竹野町は、火葬に関する事務を豊岡市に委託した。その規約では、共同施設の各市町持分がきめられた。火葬場の負担分は、一〇〇〇分比で表わして豊岡市七八六、城崎町九九、竹野町三一、日高町〇、出石町五四、但東町三〇で、霊きゅう自動車の持分は、竹野町一〇〇〇分の二五であった。

#### 第四節 六三三制教育

##### (1) 戦時教育体制の払拭

墨ぬり 敗戦で、文部省が直ちに手がけたことは戦時教育体制  
 教科書 の徹底であった。

中でも象徴的なのは墨ぬり教科書であった。教科書の取扱方は、昭和二十年（一九四五）九月二日「日本の学校に於ける極端な国家主義及全体主義的教育を一掃する」という米国務長官声明を受け、即実施



写267 墨ぬり教科書（椒・乳原厚彦蔵）

されたものである。「適当ならざる教材」として、①国防・軍備強調教材②戦意昂揚教材③国際和親を妨げる教材など、いわゆる軍国主義的記述の所を、墨で塗りつぶし、削除させたのである。

これら文部省の処置に並行して、占領軍総司令部から、国家主義・軍国主義思想の徹底除去のため発せられた四つの指令とそれに関連した県教育課の通達の一覧表を掲げる。

表149 四指令と通達

総司令部覚書		兵庫県教育課通達	
日付	件名	日付	件名
二〇・一〇・三〇	日本教育制度ニ対スル管理政策 教員及教育係官ノ調査除外、認可ニ関スル件。	二一・一・一五	日本教育制度ニ対スル管理政策ニ関スル件 教員及教育係官ノ調査除外認可ニ関スル件 教員ノ解職並ニ再任等ニ関スル件
二〇・一一・一五	国家神道ニ対スル政府ノ保証、保全、監督並ニ 公布ノ廃止ニ関スル件。	二一・一・二五	復員軍人ノ復職又ハ採用ニ関スル件
		二一・二・二〇	復員軍人等ニ関スル件
		二一・六・上旬	国民学校職員適格者資格審査資料ノ件
		二一・五・一〇	教職員退官退職措置ニ関スル件
		二一・五・一五	教職員不適格者調査ニ関スル件
		二一・六・三	学校職員任用ニ関スル件
		二一・一・二八	公職適格審査基準の拡張に伴ふ教職員適格審査 に關すること
		二一・二・二四	御真影奉還ニ関スル件
		二一・一・一一	国家神道、神社神道ニ対スル政府ノ支援、保全 及監督並ニ公布廃止ニ関スル件。

	<p>二〇・一二・三一 修身、日本歴史及び地理停止ニ関スル件</p>	<p>二二・一・二五 二二・二・一八 二二・四・二三 二二・五・一八 二二・七・一三 二二・八・二〇 二二・一〇・八 二三・七・上旬 二二・一・三一 二二・六・八 二二・七・二三 二二・八・二二 二二・一・六</p>	<p>御真影奉還ニ関スル件 御真影奉安殿ニ関スル件 天長節挙式ニ関スル件 天皇、皇后、皇太后三陛下並ニ皇太子殿下御写真ノ取扱ニ関スル件 御真影奉安殿ノ撤去ニツイテ 御真影奉安殿撤去進捗状況ノ件 教育勅語の取扱について 修身、国史、地理科授業停止並ニ教師用参考書回収措置ニ関スル件 修身、国史及地理授業停止ニツイテ 地理授業ノ再開ニツイテ 中等学校歴史科（外国史）ノ授業ニツイテ 国史の授業再開について</p>
--	--	--	--

（県教育史）

各学校では、これら四指令（覚書）を模造紙に墨書して職員室などに掲示し、その徹底をはかった。昭和二十年（一九四五）の『竹野小学校沿革誌』は、当時の有様を次のように記している。

戦後の事情

八・一五 大東亜戦争詔書煥発されて終戦となる

一〇・二二 日本教育制度の管理に関する指令発せられて、教育についての占領の目的と政策を指令され



写268 初等科教科書 (椒・乳原厚彦蔵)

た。

一〇・三〇 教育関係者の資格についての指令が発せられた。

一一・三一 修身科・国史科・地理科中止についての指令が発せられた。

占領軍 軍政部は戦時教育の一掃と前記指令の徹底のために、係官の抜打ち学校巡察を行ない、戦時教育の名残りがあれば厳しく指摘した。

『森本小学校沿革誌』には、

一一・五 米進駐軍来校、武道道具ノ始末ニツキ点検ス。

と記されている。

その時の思い出を、『森本百年の歩み』の中で次のように綴っている。そうこうするうちに二十年八月には、日本は完敗し終戦となりました。当時日本が負けたら一人残らず殺されるとの話聞いてとても恐しがったものです。

終戦四〜五カ月後には学校に進駐軍が来ました。私達の教室に背の高い、青い目の、鼻の高い顔をぬっと出した時の恐しかったこと今でもはっきり記憶しています。

御真影返還

昭和二十年（一九四五）十二月十五日付「国家神道神社ニ対スル政府ノ保全監督、並ニ公布ノ廃止ニ関スル

指令」を受け、県内政部は翌年一月二十五日、「御真影奉還ニ関スル」通牒を發して返還を求めた。「明治天皇以降全部二月四日午前九時至午後二時・場所ハ地方事務所」、「硫酸紙ニ御包ミシ白布ニ御包ミ学校長捧持シ、一名以上ノ警護ヲ付、現下ノ国内情勢ニ鑑ミ努メテ内密ニシ、遺憾ナキヲ期スルコト」を指示している。

『大森小学校沿革誌』は、その前後の様子を次のように伝えている。

- 一・一 御真影ヲ掲ゲズ、新年拜賀式挙行。
  - 一・一六 学校柵撤去。
  - 二・三 御真影奉還ニ付、全児童召集奉還式ヲ挙行。
  - 二・四 滝本校長、明治天皇以降ノ六葉ノ御真影ヲ奉持、五莊第一奉還地ニ奉還ス。
- 集められた御真影は、一部視学の手により翌夜半ひそかに焼却されたという（『育史」（県教））。
- 奉安庫（殿） 御真影を返却したのちの奉安庫は、同年七月十三日付県教育民生部長通牒により、徹底的に破の撤去 壊すべきことが指示された。

森本小学校校区二連原地区に残されている同年八月五日付各部落総代宛奥竹野村役場の文書が、当時の状況を生々しく伝えている。

#### 第一校奉安庫取除作業ノ件

聯合軍指令部ノ命令ニ基キ、全国各学校ニ在ル奉安庫ヲ此処数日以内ニ一斉取除ク事ト相成候、就テハ一校奉安庫ハ明後七日ニ決定致居候為、まよ洵ニ御迷惑ニハ候へ共、一校区域部落ヨリ各一名宛左記ニ依リ、人夫出役方御配意相成、此段急々及ニ御依頼一候也。



記

一、八月七日午前七時 一校集合

二、携行品 カケヤ・カナテコ等各自一挺、弁当。

教育勅 御真影返還の場合と同じ流れを受けて昭和二十三年（一九四八）七月、「教育勅語等の返還」  
語返還 が指示された。

膳本返還指示は文部省の「勅語を教育の指導原理とすることは民主々義に反する」のゆえをもって出されたものである。戦時教育に邁進した当時の教師にあつては、大きな精神革命を求められたのである。

三原小学校にはその受領書が残されている。

北但教学第三十八号

北但地方事務所長 印

三原小学校長殿

教育勅語等返還受領について

標記教育勅語等、左記の通り受領致しました。

一、受領年月日 昭和二十三年七月二十九日

二、受領の勅語等

一、教育に関する勅語 一通

二、青少年学徒に賜りたる勅語 一通

三、戊申詔書 一通

四、「教育の任にあるもの」に賜りたる勅語一通

計 三通

他校では「国民精神作興詔書」も返されている。

以上のようにして明治初年以來の国家主義教育の背骨が学校から姿を消し、学校は天皇の權威から脱し、大きな転換を遂げることになる。

ローマ字の 占領軍の指令があつたのであろうか、『森本小沿革誌』昭和二十一年（一九四六）には、  
小学校門標 十一月二十四日 The Okutakeno Daichi Primary School 門札掲示

となつている。戦時中は敵国語として使用が排斥された英語で、校名が掲げられたのである。小学生はいうまでもなく、人々は敗戦の実感とともに新しい時代の息吹きを感じたことであらう。

## (2) 新しい教育目標と学制改革

昭和二十一年（一九四六）三月アメリカ教育使節団が来日し、やがて占領軍総司令部に提出した報告書が、戦後の学制改革の基本となるのである。

同年五月文部省は「新教育指針」を出し、今後の日本の教育の在り方を示した。その内容の概略は「新教育の目標は、平和的文化国家の建設と民主的な国民の育成」であり、「児童生徒の個性尊重と女子教育の向上」などを重点とし、その指導方法として「討議法」を推めたものである。

そこで、『大森小学校沿革誌』により、敗戦をはさんで前後の教育方針を比較すると、あまりにも対照的である。

昭和二十年度

教育の根本

本県ノ決戦教育重点ニ立脚シ、児童教師揮然一体トナリ、行学一体ノ原理ニ基キ戦力増強ヘト邁進ス。

決戦教育重点

- 一、教育ヲ戦力増強ノ一途ニ凝集スル
- 一、学童ノ敢闘力ノ強化徹底ニカム
- 一、教職員ノ決戦態勢ヲ強化スル

校訓ト誓詞

- 一、忠誠 天皇陛下ニ総テヲ捧ゲマツラン
- 一、敢闘 進ンデ最後マデヤリヌキマス

昭和二十一年度

終戦ノ大詔・本年一月一日ニ下シ賜ヘル平和国家建設ノ詔書ヲ奉戴シ、道義ヲ基盤トスル平和的文化国家ヲ建設スル教育コソ、我が民族ノ永遠ノ教育理想デアル。

新教育ノ目標

- 1、軍国主義並ニ極端ナル国家主義ノ排除
- 2、画一主義ノ排除自主自律ノ精神

昭和二十一年（一九四六）十一月三日「日本国憲法」が公布され、翌二十二年三月には新憲法の精神に基づ

いた「教育基本法」が制定され九九年の義務教育が定められ、「国民学校」は再び「小学校」となった。

社会科 戦後教育を彩る特徴的なものは社会科ではないだろうか。これは、民主教育の花形として初めの誕生 へ出現し、新教育を象徴するものであった。誕生の経緯は「修身・国史・地理各科中止」の指

令により、その教科書類は回収され授業は停止させられていた。そして同二十二年（一九四七）の新学制とも三教科に代わって社会科が生まれた。

『竹野小学校沿革誌』昭和二十三年（一九四八）の冒頭には、

新学制実施第二年度、新しい教科目の社会科・家庭科・自由研究も漸次その面目を発揮し、前からあった教科も、新教育の目標に向いその内容も方法も変ってきた。

と記されている。

### (3) 新制中学校の発足

発足当時の 戦後日本を訪れたアメリカ教育使節団により、義務教育年限の延長が勧告された。つまり、  
中学校 「男女共学制を採り、修業年限を九年に延長、更に生徒は最初の六カ年は現在と同様小学校に

於て、次の三カ年は『初等中学校』に於て修業することを提案する」というものである。

これを受けて、政府は、小学校六カ年に続く三年課程の初等中学校（新制中学校）案を決め、占領軍の賛意を得て閣議決定し、昭和二十二年四月一日、新学制を発足させた。

『竹野小学校沿革誌』は、竹野中学校創立併置当時の有様を次のように伝えている。

四月一日 全竹野村立竹野中学校が新設されて、高等科児童は全部進学し、竹野小学校は旧初等科だけと

なって、本校十二学級分教場二学級計十四学級となった。

竹野中学校には新校舎建築まで小学校の一部を貸与（旧校舎八教室）、運動場・講堂・裁縫室等共用することにした。

町内各中学校『沿革誌』の初ページには、次のように記されている。

○竹野中学校

昭和二十二年四月一日 兵庫県城崎郡竹野村立竹野中学校と称する

学制改革により竹野村立竹野中学校創立、竹野小学校に併置（〔竹野中学校沿革誌〕）

○中竹野中学校

昭和二十二年五月一日 兵庫県城崎郡中竹野村立中竹野中学校開校

小学校校舎二階建一棟使用（〔中竹野中学校沿革誌〕）

○森本中学校

昭和二十二年四月一日 城崎郡奥竹野中学校

六月四日 奥竹野村外一か村学校組合立奥椒中学校

法律第二十六号学校教育法により中学校が新設されることとなった。同年四月十四日、先ず兵庫県城崎郡奥竹野中学校長事務取扱として県保健体育課より橋本勇校長を迎え、逐時設立準備が進められた。

同年四月二十日、奥竹野中学校長兼奥竹野青年学校長と正式に任命された。その時は、校舎・職員・生徒もない状態であり、当時高等科担任の大野貞雄教諭・高田浩平教諭等の生徒勧誘により、一年全員、二



写269 奥椒中学校第1期卒業生



写270 発足当時の奥椒中学校

定を見て、当時の奥竹野第一小学校校舎の北側平屋校舎二教室と二階北端教室一教室が仮校舎として与えられ、授業を開設するに至った（『森本中学』校沿革誌）。

新中時代 『森本の百年の歩み』

新しい中学校が誕生した。一年は小学校の一隅の教室にゴザを敷き、裁縫のすわり机をならべた教室である。二年・三年生は土間にスノコ板を敷き、そして勉強した記憶がある。

年生は大部分、三年生は僅かに十名という淋しさであった。五月一日職員陣容は整ったので開校式を挙行するに至った。

かくて、仮称奥竹野中学校として、奥竹野三椒村学校組合立として発足同年六月四日学校組合議員会議により、奥竹野村の奥と三椒村の椒をとり奥椒中学校と校名の正式決

教科書は、今頃の新聞のようなもので、自分ではさみで切って製本しなければならなかった。糸でつづつた薄っぺらいものであった（一部略）。

このようなみじめな出発に当たり、入学してきた生徒たちに何とか中学生としての誇りを持たせるべく考え出されたのが帽子に一本の白線を巻くことであつたという（『（育史）県教』）。

#### 校舎の建築

困難な条件下に発足した新制中学校が、その後着実な歩みを続けて今日の盛況をみるためには、関係者の多大の苦心と地区民の協力があつた。その一端を『竹野村会議事録』によってみる。

#### 竹野中学校新築について

竹野村竹野字江川に竹野中学校を次の通り新築するものとする

昭和二十六年三月三十一日提出

竹野村長 木下徳造

#### 記

一、敷地 竹野村竹野字江川七六三番地の一外二十一筆

二、建物並ニ施行年度 昭和二十五年第一期工事施行

中学校々舎木造瓦葺二階建一棟 延二五八・五坪

三、会計 竹野中学校建築特別会計とす

四、財源 負担金を以つて財源となす外、国庫補助金・村債・寄附金・一般会計より受入れる。

○建築負担金 二、〇九九、三二〇 一戸当平均三、〇〇〇円七一四戸分

○国庫補助金	八四八、四〇〇	四教室二二〇坪分
○特別寄附金	一、一二五、四〇六	
○村債（教育債）	一、〇〇〇、〇〇〇	
計	五、〇八三、一二六	

そして建築負担金が、一等八六二〇円から二〇等一〇八〇円までに賦課されたのである。

また第二期（昭和二十八年〈一九五三〉本造瓦葺二階建校舎）建築費のうち二一〇万円の負担金も一戸当平均三〇〇〇円で七〇〇戸が二等（一等なし）一万四〇〇円から四〇等五〇〇円の拠出をしているのである（昭和二十五年〈一九五〇〉の米価一俵二〇六四円・同二十七年〈一九五二〉の米価一俵三〇〇〇円）。

椒小学校及奥椒中学校椒分校は、昭和二十四年（一九四九）七月八日夜半全焼した。その再建なった同二十六年（一九五二）五月十五日竣工式の、兵庫県教育委員会告辞は、次のように述べ、当時の困難な様子を伝えている。

御承知のように、我国は敗戦によって過去のあやまちを深く反省し、文化的な国家再建のためにも、世界の信用を恢復する上に於いても、教育を刷新することが喫緊の要務であるので、あらゆる困難を覚悟の上で新学制を実施して参つたのであります。

しかしながら、この道は各方面に予想以上にけわしく、教育への支出は最良の投資であるということとは、アメリカ教育使節団によって述べられた示唆に富むことばであります。我が国財政の現状はなかなか思うに任せず、六三制による学校の建築整備は全国的ななやみとして、市町村はその負担に苦慮して来られた



ことは、今更申し上げるまでもないことであります（中略）。総工費予算四百七拾万円をもって小中学校建築難事を完成されたことは、まことに慶賀にたえぬと共に関係各位の御労苦に対し、衷心より敬意を捧げる次第であります。

以後、整備の概略は次のようになっている。

竹野中学校

昭二七・四・五 新校舎竹野町竹野に落成移転する

昭三三・一二・二七 体育館落成

中竹野中学校

昭二八・二・ 一棟三教室竣工

同 一〇・ 講堂完成

奥椒中学校（森本中学校）

昭二八・五・二五 新校舎落成（本造二階建八教室及付属建物）

昭二九・一〇・二 雨天体操場落成

昭四二・二・一四 鉄筋二階建校舎竣工

昭四三・一二・二 冬季宿舍竣工（若竹寮）

昭四五・四・一 椒・三原両校舎実質統合、スクールバスによって両校舎の生徒が通学する。

昭四七・七・一六 プール完成

## (4) 定時制高校

定時制高校 昭和二十二年（一九四七）三月教育基本法の制定とともに、六三三制教育制度が確定し、旧制の設立 度中等学校は昭和二十三年四月から新制度高等学校へ切り替えられた。この改革の重点は、一、

男女共学 二、学区制 三、総合高校 のいわゆる「高校三原則」四、定時制課程の四点であった。定時制課程は、同時に設けられた通信教育部とともに勤労青少年の向学心に応え、教育の機会均等を保障する制度であった。

北但では、豊岡高校と浜坂高校を中心として、双方に、香住・竹野・出石・資母及び小代・温泉の分校を併設する。こうして豊岡高校に中心校（全日制と併設）・香住分校（香住中学校内）・竹野分校（竹野中学校内）・出石分校（出石高校内）・資母分校（資母中学校内）が誕生し、定時制教育が幕を開ける。十一月二十五日第一回入学式、百八名の入学生、中心校の授業開始は十二月七日であった。

同二十七年（一九五二）県教育委員会は、赤字財政と運営の合理化を理由に分校の統廃合をすすめ、同三十一年（一九五六）三月末竹野分校を廃し（但し当分の間竹野分教室を存置）、城崎分校に統合の処置をとった。その城崎分校も、同三十九年（一九六四）三月末をもって廃校となり、中心校に吸収された。

竹野分校に関する資料は、同四十七年（一九七二）十月四日の豊岡高校大火災により、他の資料とともに一切を焼失、遺憾ながらその詳細を知ることができない。僅かに残された資料（表150151）から推察するだけである。

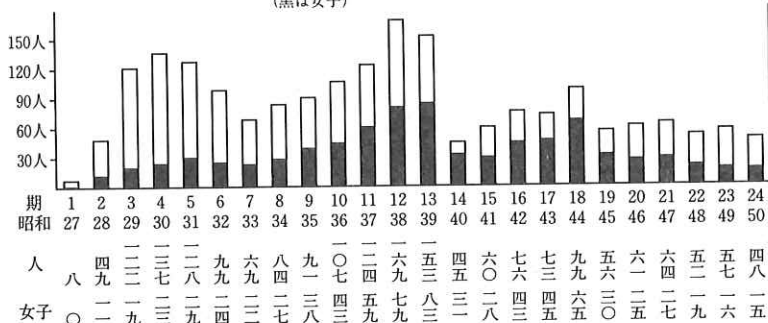
第四節 六三三制教育

表150 定時制在校生生徒数内訳

( ) 印は内女子を表わす。  
未記入は不明

年度	豊岡	竹野	香住	出石	資母	日高	城崎	合計
23	( )	( )	( )	( )	( )			( )
24	55( )	28( )	22( )	49( )	56( )			210( )
25	134( 16)	43( 7)	77( 11)	69( 8)	59( 19)	86( 19)		468( 80)
26	226( 27)	53( 14)	97( 13)	78( 4)	66( 18)	132( 28)		652(104)
27	256( 29)	73( 21)			80( 19)	171( 32)	75( 14)	655(115)
28	259( 30)	80( 28)			102( 33)	177( 39)	86( 31)	704(161)
29	260( 42)	88( 45)			98( 44)	161( 39)	90( 34)	697(204)
30	229( 44)	81( 50)			94( 46)	145( 33)	95( 32)	644(205)
31	224( 55)					140( 44)	111( 54)	475(153)
32	215( 64)					163( 66)	87( 39)	465(169)
34	253( 96)					229(121)	110( 40)	592(257)
35	243(106)					250(129)	139( 63)	632(298)
36	230(114)					205(102)	125( 65)	560(281)
37	225(115)					116( 57)	112( 60)	453(232)
38	251(127)					49( 23)	65( 45)	365(195)
39	268(134)						17( 12)	285(146)
40	336(197)							336(197)

表151 定時制卒業生生徒数 (中心校、日高、資母、竹野、城崎分校)  
(黒は女子)



(参考) 1期 中心校5人、日高1人、竹野1人、計8人。  
2期 中心校25人(内女5人)、資母19人(内女6人)、竹野5人(内女0人)、計49人。  
3期 中心校49人(内女5人)、資母14人(内女2人)、竹野15人(内女4人)、日高40人(内女8人)。  
城崎4人(内女0人)、計122人

(『豊岡高等学校80周年記念誌』)

一卒業生 昭和二十七年（一九五二）入学三十一年三月卒業の一生徒は在学時を回想し、次のように語っている。

中学校卒業後町内の建設会社に勤務しながら、夜六時から十時頃までの三教科の授業に通った。

『時間がくるから早く帰してやらにゃあ』という雇用主の理解があり、またそれなりの勉学の意志と気持ちの張りはあるながらも、留年ぎりぎりの出席日数の四年間であり、三十人の入学者が卒業時には八人だった。

森本方面の人達は自転車を通ってきた。木馬引きや農業や土木作業に従事している人達だった。中学校内の設置とはいっても、小学校の旧校舎で、裸電球にガタピシのガラス戸、冬は大火鉢を囲んでの授業だった。授業終了後火鉢の灰を掻きながら、熱っぽく勉学の必要性を説かれたり、ピアノを弾きながら一緒に歌い、青年の心を育ててもらった。生きる意志を培った四年間だった。

#### (5) 教育委員会の発足

**教育委員会** 敗戦によりそれまでの教育理念はくずれ、国土は、地方にあつては荒廃し都市は廃虚と化して法の成立 いた。学校は外来者が土足で上がることもあつた。県教育課が、中央からの指示に従い戦時色

の払拭を進めていた昭和二十一年（一九四六）三月アメリカ教育使節団が来日した。その報告書の中に「教育行政の地方分権化」が示された。その要点は

- 1、文部省の地方教育行政の権限を、地方教育行政機関に移譲すること。
- 2、地方教育行政を、一般行政から独立させ、自主独立性を確立すること。

というものであった（『県史』（育史））。

明治以来町村の教育行政は、町村長の権限の下に学務委員が当たってきたが、敗戦とともにこの制度は廃せられ、使節団の勧告に従って同二十三年（一九四八）七月「教育委員会法」が成立し施行されることになった。この法律は、「公正な民意により、地方の実情に即した教育行政を行なうために、教育委員会を設けて、教育本来の目的を達成すること」を目的とした、極めて民主的な理念に基づくものであったが、今までの我が国にはなじみのない教育制度であった。この公選制による本町の各旧村の教育委員会は、同二十七年（一九五二）十一月一日発足し、助役が教育長を兼務したのである。

**公選制**　しかし民主的なこの制度も定着の暇を与えられることなく、同三十一年（一九五六）施行の「地方の廃止　方教育行政の組織及運営に関する法律」により、公選制が廃され首長による任命制の教育委員会に改められた。

他に文部大臣と地方教育委員会の指導・従属の関係や、一般行政からの自主性・独立性を保障しようとしていた教育委員会の予算案・条例案の原案作成権もなくなるなど、形式的には教育行政における地方分権の制度になっているものの、実質的には中央集権的な、規制の強いものとなった。

(6) 町村合併と学校整備

**合併と学校**　昭和三十年（一九五五）三月三日「奥竹野村・中竹野村・竹野村・三椒村を廃し、その区域の状況　もって新たに竹野村」が設置された。

合併当時の学校状況は次表のようであった。

表152 学校状況  
(一) 小学校

設立区分	学校名	学級数	職員数	男児	女童	計	所在町村名
〃	竹野小学校	一一	一三	一三六	二二〇	四四六	竹野村
〃	同 田久日分教場	一一	一一	八	八	一六	〃
〃	同 須井分教場	一	一	一二	九	二一	〃
〃	中竹野小学校	六	八	一〇一	一〇四	二〇五	中竹野村
〃	同 松本分教場	二	二	二八	二〇	四八	〃
〃	奥竹野第一小学校	七	八	八一	七五	一五六	奥竹野村
〃	奥竹野第二小学校	三	五	二九	三一	六〇	〃
〃	椒小学校	三	五	五二	三八	九〇	三椒村
〃	三原小学校	三	四	二八	二二	五〇	〃
合計		三七	四七	五七五	五一七	一、〇九二	

(二) 中学校以上

設立区分	学校名	学級数	職員数	男児	女童	計	所在町村名
〃	竹野中学校	六	一一	一六三	一四七	三一〇	竹野村
〃	中竹野中学校	三	六	六二	六六	一二八	中竹野村
〃	奥椒中学校	三	八	六四	四六	一一〇	奥竹野村
〃	奥椒中学校 椒分校	二	三	一七	一八	三五	三椒村
〃	奥椒中学校 三原分校	二	三	一〇	一四	二四	〃
〃	定時制高校竹野分校	四	三	四〇	四一	八一	竹野村
合計		二〇	三三	三五六	三三二	六八八	

(三) 幼稚園

設立者別	名称	職員数	園児数	竹野村	備考
〃	竹野幼稚園	三	一一五	竹野村	

(町村合併申請書)

合併によって、諸種の急を要する行政上の懸案事項が山積していたが、とりわけ学校整備は焦眉の急であった。

たとえば『森本小学校沿革誌』昭和三十一年（一九五六）、

二月二十三日 臨時休業、午前二時頃便所大屋根庇二間余積雪の為崩壊す。

二十四日 積雪の為臨時休業とし、午後一時より育友会役員会を開き後の事につき協議。

- 1、腐朽度の強い校舎に於て授業続行かどうか
- 2、中学校に疎開するか
- 3、補強工事を直ちにするか
- 4、新校舎を建設する運びにするか等、育友会役員としては教育委員会の責任ある補強終了まで登校禁止と決定し、育友会長垣田氏雪の中を竹野村役場に出張、村長の現状視察を要請さる（二月二十七日まで休業）。

という有様であった。

各校の新・  
改築陳情  
前記森本小学校は移転新築が議せられ、昭和三十三年（一九五七）三月十三日落成式を挙行しているが、他校のそれも切迫を告げている。

竹野中学校（昭和三十一年一月三十日受付）請願者 育友会長花房喜代次他八八〇名連署

学校体育館建設請願書



写271 改築前の中竹野小学校

教育振興の第一義は「人」にあることは勿論ですが、設備施設がこれに伴って一丸となって進行致します時に、その効果を挙げるものであることは今更論ずるまでもありません。

不備な点多々ある中に、屋内体育館の設備は焦眉緊急であり、急務中の急務と存ずるものであります。

村将来発展上に於ける重要性を思います時、敢て事情の御考察を願い、速やかにこれが建設の実現を企図していただきます様切に要望してやまないものであります。

竹野村議会議長 浜辺儀作殿

中竹野小学校（昭和三十二年八月十九日受付） 陳情者 各区々長育友会役

員連署

陳情書

中竹野小学校々舎は明治四十年十一月十一日建築以来、五十一年の星霜を経て腐朽甚だしく、校舎の床下をあまねく調査した結果、殆んど腐朽しており、役柱の下部等の腐朽甚だしく校舎全体が総持ちの状態で、校下の部落民は農村不況にもかかわらず、こぞって地元負担金の拠出を申し合わせ、小学校改築を一日も早く実現していただきたく要望している次第であります。



竹野小学校 (昭和三十三年十二月十八日受付) 陳情者校舎改築促進委員青

山敏一他役員一同連署

請願の歴史は長きに及んでおり乍ら、徒らに空しい言葉の綾のみが流されるだけで、具体的な建築は実際には着手されていないのであります。最早無為無策、これ以上の遷延は許されないのであります。

大森小学校 (昭和三十四年六月二十五日受付) 校区々民役員一同連署

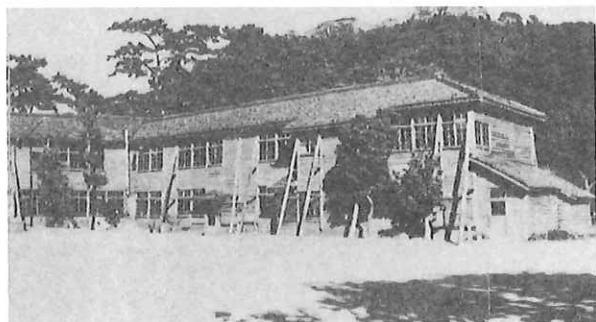
陳情書

大森小学校は明治三十九年十一月に改築し、爾来五十四年を経過し、竹野町内では最も古く、但馬地区は勿論県下に於ても稀に見る老朽校舎であります。校舎の土台・柱は甚しく腐蝕破損し、支柱により僅かに支えられているに過ぎず、見るからに恐しさを覚える有様である。

事情を具陳し、速刻に最善適切なる御措置方衷心よりお願い致す次第であります。

町会議長 藤原俊雄殿

以上のような各校区民の要請に依って町当局及び教育委員会は、順次その整備を進めて区民の希望を実現していったのである。その間、昭和三十四年(一九五九)伊勢湾台風、同三十六年(一九六一)の第二室戸台風、



写272 改築前の竹野小学校

同三十八年（一九六三）の三八豪雪などの大災害の復旧と併行して整備を行なった担当者の労苦は並々ならぬものがあつたと思われる。

合併以来の学校増改築などの整備状況などを列記すると以下のようなになる。

昭三二・三・一三 森本小学校竣工

一二・一七 竹野中学校体育館竣工

昭三三・五・三〇 三原小学校一教室増築

昭三四・三・三 中竹野小学校々舎（鉄筋二階建）竣工

昭三五・七・三〇 竹野小学校々舎第一期（教室棟）完成

昭三六・四・二一 同右 第二期（管理棟）完成

昭三七・六・二 大森小学校新築

昭三八・六・二五 竹野小学校体育館竣工

一二・二四 大森小学校体育館竣工

昭四二・二・一四 森本中学校（鉄筋二階建）竣工

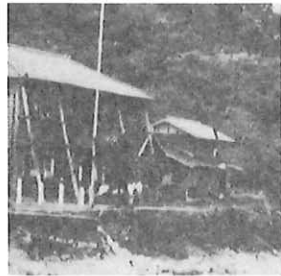
昭四三・一二・二 同右 冬季宿舍竣工

昭四五・三・三一 森本中学校校舎・三原両校舎を廃止、生徒用スクールバス運行開始。

六・二 三原小学校校舎（鉄筋二階建）完成



写274 改築前の森本小学校



写273 改築前の大森小学校

昭四六・四・一 竹野小学校の田久日・須井両分校、宇日冬季分教場廃止スクールバス運行。

教育設備 前掲の学校整備状況でみるとおり、竹野町は十数年の間に六校の充実 舎と三体育館を建設した。まさに大事業であった。このため、町出身者の援助を仰いだ。

まず、丸善石油社長・和田完二から貴重な寄付を受けた。昭和三十四年（一九五九）竣工の中竹野小学校舎、同三十六年竣工の竹野小学校舎、引き続き建てられた同校体育館についてであった。

和田完二は明治二十九年（一八九六）、良之助・はつの二男として松本で生まれた。松本と轟で小学校教育を受けたのち、県立豊岡中学校を卒業した。それから大連に渡って満鉄に勤めた。昭和五年（一九三〇）丸善礦油（丸善石油の前身）に入社し、大陸に渡って大連支店長、のち上海支店長を兼務した。終戦後帰国し、丸善石油再建の中心として活躍、同二十七年社長に懇請された。

町にとつてもう一人の強力な援護者は、富士興業株式会社社長・富田保治であった。昭和四十五年（一九七〇）七月建設の中竹野小学校プール、同四十七年七月建設の森本小学校プール、翌四十八年七月建設の竹野小学校プールのそれぞれに多額の寄付を仰いだ。社会教育施設である町内三公民館の建設の際に



写276 改築前の三原小学校



写275 椒小学校

表153 過疎地の実態 (1980『国土庁過疎白書』)

		全国比(%)
市町村数	1,093	34.1
人口(万人)	842	7.6
面積(万km <sup>2</sup> )	16.6	44.1
人口減少率(%)	昭35~40年	13.2
	40~45	13.4
	50~55	3.2

は、いずれも館内備品の贈呈を受けた。さらに、社会教育センター(会館)などの建築について援助を受けた地区は十指を越している。

富田保治は明治三十七年(一九〇四)、垣田市三・よし夫妻の二男として河内で生まれた。奥竹野第一尋常小学校、中竹野第一尋常高等小学校で勉学に励んだ。長じて京都の富田家に入り、ヨシと結婚、富士興業を経営した。竹野町は、その功を称えて竹野町名誉町民(第一号)の称号を贈った。

#### (7) 小学校の統合と「竹野南小学校」の発足

##### 過疎と学校

昭和三十年代、池田内閣の所得倍増計画の推進に伴い、我が国の産業構造の変化は日本社会の従来からの在り様に大きな変化を与えた。その最たるものは、大都市への人口集中による過疎

化と、地方、特にへき地の過疎化現象である。その上、同三十八年(一九六三)の豪雪(三八豪雪)は、孤立した地域住民の挙家離村を促し、若年労働者の急激な都市流入となった。

同五十五年(一九八〇)十一月の国土庁『過疎白書』によるとその実態は表153のようになる。

本町も過疎の地域である。それを、昭和四十年以降十年間の小・中学校区毎の人口動態と減少率でみると次の表154のようになる。

本町での児童・生徒の年度別在籍数(表155)にみられる児童・生徒の減少、とりわけ南のへき地校のそれは著しく、複式はいうまでもなく欠学年ができて近代

的な学校らしからぬ状況が生まれた。  
そこで町当局は、学校整備の諸準備を進めることになった。その概略をあげると次のようになる。

- 昭和五十一年 「竹野町教育推進委員会」設置
- 同 五十四年 「学校整備の基本方針」決定
- 同 五十五年 「住民アンケート実施」
- 同 五十九年 「竹野町学校整備推進委員会」設置、教育委員会へ答申書提出。

(答申書骨子)

- 1、中学校は現行通り二校
- 2、小学校は三校とし、南四校を統合する。
- 3、学校給食センターは、全町を対象の早期実施。

○同 六十年 竹野町教育委員会は、町長に対して「意見書」を提出。答申内容を基本として可能な限り早期

表154 校区毎の人口動態と減少率 [竹野町教委 49.4.1 現在調]

年度率	校区	三原小	大森小	椒小	森本小	中竹野小	竹野小	合計	森本中	竹野中	合計
		40	人口 人	309	438	476	984	1,282	4,182	7,671	2,470
	率 %	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
45	人口 人	239	372	364	904	1,098	3,959	6,939	2,109	4,829	6,935
	対40年比 %	77.4	84.9	76.5	91.9	85.7	94.6	90.4	85.8	92.8	90.4
49	人口 人	226	328	328	853	1,055	3,964	6,754	1,972	4,782	6,754
	対40年比 %	73.1	74.9	68.9	86.7	82.3	94.8	88.1	79.8	91.9	88.1

表155 竹野町立小中学校児童生徒の年度別在籍数 [竹野町教委 55.4.1 調]

年度	校名	竹野小	中竹野小	森本小	大森小	椒小	三原小	小計	竹野中	森本中	小計	合計
		昭和35年	641	235	178	76	87	59	1,276	335	167	502
48	432	108	79	33	18	24	697	251	109	360	1,054	
49	422	104	75	29	18	24	672	268	109	377	1,049	
50	400	97	81	21	15	23	637	279	90	369	1,006	
51	385	84	78	18	15	16	596	287	96	383	979	
52	370	86	68	17	15	12	568	274	100	374	942	
55	377	79	78	14	14	8	570	226	72	298	868	
在籍率 %(55/35)		58.8	33.6	43.8	18.4	16.1	13.6	44.7	67.5	43.1	59.4	48.8

備考1. 昭和51年度には大森小・椒小は入学者なし。三原小1人。  
2. 中学校は生徒の減少影響が52年度までは大差がないが、53年度より毎年30人程度減少し、58年度には270人となる。(52年度推計)

実現を要望し、統合小学校開校を六十二年四月一日とした。

○同年 「教育環境整備元年」とし、関係校区々民との懇談会開催。

○同年 「学校整備促進委員会」設置

そのころ、政府の「臨時教育審議会」は、昭和六十一年（一九八六）四月第二次答申で、二十一世紀に向けた教育実践目標に、「ひろい心と豊かな創造力、自主・自立の精神、世界の日本人」の三項をあげてその具体化を提案した。当町には、この基本となる教育環境が、適正を欠く地区があり、この解消のための機運は熟したとして、いよいよ南四小学校の統合校舎建設に着手した。

位置は、委員会の審議結果、御又地区タモノミヤと決定し、敷地造成を陸上自衛隊施設大隊に依頼し、校舎は、地元建設業者を含む共同企業体が請負った。総事業費八億円、総面積三万二六〇〇平方メートル（内建設用地六八七五平方メートル、グラウンド面積八三〇〇平方メートル）、校舎はRC造り三階延面積二一八六平方メートル、体育館RC造り平屋延一〇〇〇〇平方メートル、グラウンドは二〇〇メートルトラック・直線一〇〇メートルである。

表156 住民アンケート結果集約（55.1月実施）

(問) 小学校、中学校の生徒が少なくなっておりますが、学校統合についてどう思われますか

項目 區別	現状のまま		小学校統合		中学校統合		小中共統合		わからない	
	%	戸	%	戸	%	戸	%	戸	%	戸
椒小校区	52.0	35	14.9	10	4.4	3	7.5	5	13.4	9
三原小校区	51.1	23	20.0	8	2.2	1	15.9	7	8.9	4
大森小校区	38.7	24	29.0	18	3.2	2	14.5	9	11.3	7
森本小校区	41.1	67	21.5	35	6.6	11	20.3	33	6.7	11
中竹小校区	41.0	71	4.7	13	17.0	31	18.9	33	6.3	11
竹野小校区	56.6	379	4.8	32	9.4	63	10.0	69	9.4	63

備考

1,567戸対象、回答1185戸 76%

自然環境を最大限に生かし、ゆとりと潤いのある配慮とともに、将来への展望と児童へ夢と希望を与える  
明るく斬新なものと、との設計理念に基づいて、近代的で新鮮なデザインと、新しい学習体系に備えた多目的ホ  
ール、ゆとりあるワークスペースに相談室・ランチルームを整えた校舎は、翌、昭和六十二年（一九八七）三  
月竣工し、四月一日「竹野南小学校」として開校した。

(8) 幼稚園教育の推移

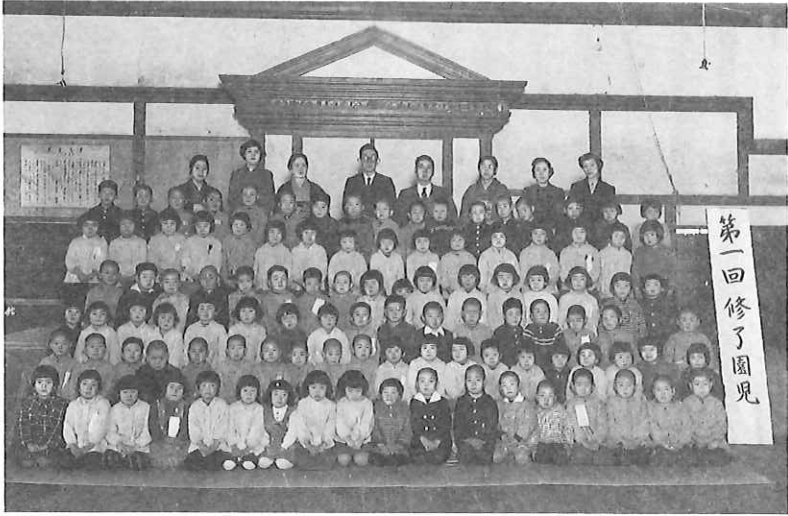
戦前の 『竹野町沿革誌』によると大正十三年（一九二四）の箇所以下のように記されている。  
幼稚園

○中竹野幼稚園を中竹野尋常高等小学校に併置す

○大森幼稚園を奥竹野第二尋常小学校に併置す

我が国幼稚園教育の本格的な普及は、明治四十年（一九〇七）義務教育六年制が確立した以後で、大正年代  
に急速に設けられるようになった。大正十五年四月、「幼稚園令」が公布され、幼稚園教育制度が小学校令か  
ら独立した。

先の三幼稚園の設置は、時代の流れに適したものではあったが、正規の基準にかなっていない保育形式と内  
容のために「会」と称せられたのである。つまり、第七条「幼稚園二ハ園長及相当員数ノ保母ヲ置クベシ」な  
どの条件を満たすことができなかつたからである。保育ふりは不明だが、当時一般に行なわれていた、月水金  
の隔日・午前中裁縫科担当の女教師が、畳の間の裁縫室を保育室に兼用しての開設であつたのであろう（『清滝  
小学校沿革誌参考』）。



写277 竹野幼稚園第1回修了式

戦後の幼稚園教育 従来の幼稚園は家庭教育の補助的機関であったが、昭和二十二年（一九四七）公布の

学校教育法により、学校教育体系に組み込まれ、以後は独立の教育機関としての位置を確保した。これが世人の理解を進め、すべての幼児により教育の機会を与える機運を次第に高めていった。

『竹野幼稚園沿革誌』

昭和二十八年六月一日

竹野幼稚園創立 竹野地区十二部落（小学校に併置）

同年十二月十七日 公立竹野村竹野幼稚園となる、公立認可。

昭和三十八年三月十六日 新園舎落成

昭和四十六年四月一日 スクールバス通園となる（田久日・宇日・両須井だけ）

『中竹野幼稚園沿革誌』



昭和三十一年四月一日 竹野村立中竹野幼稚園創立 中竹野小学校に併置一年保育（満五才児）

昭和三十三年十二月六日 独立園舎竣工

昭和四十七年四月一日 二年保育（四才児五才児一括）となる

こうして現在に至っている。

(9) 婦人会の歩み

町村合併前 戦時軍政主導の下に戦争に直結する活動を強いられた婦人会の戦後の出発は、昭和二十一年（一の婦人会 九四六）四月、戦後初の総選挙への参政権の行使からである。それは「平等と権利と義務」への

の覚醒であり、婦人自身から盛り上げる要求と努力が基本となった。

戦後間もなく、旧村単位に婦人会は誕生しているが、その発足初年当時の詳細は判明し難い。「城崎郡連合婦人会三十五年の歩み」及び「小城婦人会記入帳（昭和二十五年以降）」から、合併前の約十年間を概観すると以下のようになる。

昭二一・三・六 大日本国防婦人会の名称がなくなり、各地域婦人会として結成され、地区代表者は支部長と改称される（「郡婦」）。

昭二二・五・四 戦災孤児救援のために一握りの米抛出運動を展開（「郡婦」）。

昭二五・四・二〇 城崎郡連合婦人会会則がつくられる（「郡婦」）。

昭二六・二・二七 城崎郡連合婦人会総会、城崎中に於て（「郡婦」）。

四・六 本年度会費一人貳拾円（「小城」）。

六・二〇 さなぼり休みに御馳走す。材料買入合計四六七円（「小城」）。

昭二七・ 四・二三 前年度ト同ジク古新聞一人ヨリ毎月三枚ツツ出シ、コレヲ売ッテ奥竹野村婦人会ノ金

ニシ学校ニ出シテ備品ヲ買ッテ貰フ（「小城」）。

六・二九 敬老会開催、一戸当餅米一合一勺ツツ出シ合セ計二升四合役場ニ出ス、老人一人当三

合（中略）老人ヲナグサメタ（「小城」）。

一・二・二〇 豊岡養老院へ全会員ヨリ米三合出ス（「小城」）。

一・二・二七 笹刈ヲシタ、イボ笹十貫匁ヲ七十円、笹代千四百円也（「小城」）。

昭二八・ 一・ 八 新年会、鶏一羽村ヨリ貰イ、豆腐ハ支部長ヨリ出シ米三合ツツ出シ（後略）（「小城」）。

三・一二 村会傍聴ニツイテ婦人会モ参加スルコトニナッタ（「小城」）。

三・二三 産児調節講演会、香住保健所長看護婦長ノ二名デオ話ヲシテ頂ク（「小城」）。

五・一九 県婦人大会で「父の日」制定決議（六月第二日曜日）、全国実施は昭和三十年（「郡婦」）。

昭二九・ 五・一二 中学校に座布団二十人前分寄贈、代金五円五百円（「小城」）。

七 移動図書館・移動公民館が巡回。図書貸出、栄養料理等指導を受ける（「郡婦」）。

ささやかな一地区の活動である。みずからの労働で会費を調達し地域づくり、慈善・育英事業、研修や親睦と、地区を支えて多彩な活動ぶりは、他の地区に於ても同様であったであろう。

合併後 昭和三十年（一九五五）三月、旧四カ村が合併し、七月十日新竹野村婦人会初総会が中竹野小の歩み 学校講堂を会場に開かれた。初代会長は竹野地区婦人会長永田房子、事業計画の中心は「公民

館中心の婦人活動の振興」であり歳入出予算は五万四八〇〇円であった。

会則は、各単位婦人会毎に定められていたが、森本地区婦人会のそれは、新生日本及び竹野村の新たな発足にふさわしく格調高いものがある。

第三条（目的） 本会は日本新憲法に基き、婦人の地位向上と共にその教養を高め、平和日本再建のため文化向上・生活組織の確立・道徳社会の昂揚、並びに家庭教育の充実をはかるを目的とする。

竹野町連合婦人会は、旧村単位の四地区婦人会の下に各区（大字）単位の支部を下部組織として構成され、活動も各区各地区の実態と、過去の活動の経緯（いきまづ）をふまえて行なわれており、その事業内容は多岐多彩である。

教養・人権学習・生活防衛・消費生活の合理化・慈善奉仕活動・健康の維持増産と社会教育活動に止まらず幅広い活動を展開している。

本町婦人会の活動の特色は、竹野町や町農業協同組合・但馬科学センターや豊岡保健所等の依拠団体として、社会構造の変化に合わせた事業を行なっている。

○農業協同組合婦人部 本来婦人会とは別組織のものであるが、大部分が会員即部員という実態からその統一をはか

も以後表裏一体の関係となっていく。農協活動を理解し、町ぐるみ検診・消費物資の共同購入・農業等の災害防止などの活動推進で、家庭と地域に密着した地道な活動が続けられている。

○消費者の会 昭和四十七年（一九七二）九月、竹野町消費者の会が結成され、以後かしこい消費者となるための啓発と実践が積み上げられてきた。石けん使用運動・日用品修理会の推進・クレジットカ

ードや悪徳商法などの社会問題との関連を採り上げられ活動を進めている。

### ○いずみ会

昭和四十五年（一九七〇）、食生活の改善を通じて健康の維持増進をはかる目的で発会した。

「栄養は生命の泉美の泉」の意を表わす会の活動は、食生活改善推進のボランティア活動として高く評価されている。

### ○愛育班

昭和五十七年（一九八二）に竹野・中両地区、翌年、南地区で発足した。主婦が交互に班員となり、地区の人すべてを対象に保健と福祉を中心に連帯感を深めて健康づくりを進める、婦人会活動の一つである。同五十八年、訪問活動・町ぐるみ検診などの活動実態をスライドに作成し啓発に努めるなど、当町の在り方は、県の推進モデルとなっている。

このように、地域や家庭づくりに大きな役割を果たしてきたが、有職婦人の増大・家庭内職さらにそれらをつつみこんだ社会構造の変化は、従来の婦人会活動を困難にするという大きな課題をかかえている。

## 第五節 道路整備進む

### (1) 竹野町の主な道路

竹野町の北方は日本海に面し、三方を山に囲まれているため古来、急峻な山道や峠を徒歩で越えての交通であった。南面する日高町へは、河内・大森・三原から水山峠を越えて日高町東河内へ出る河内・美方線や、森本から番屋峠を経て豊岡市船谷に達する日高・竹野線。床瀬から青山峠を経て日高町太田に越す床瀬・太田線などがあり、また、東方の豊岡方面へは旧江野街道があり、付近の住民の主要道路であった。城崎町へは来日

山や芦谷峠を越え、あるいは旧湯嶋街道と呼ばれた鑄物師戻し峠越えなどがそのおもなルートであった。昭和四十九年（一九七四）十一月二十一日鑄物師戻し峠にトンネルが貫通した。その他、旧来の多くの山道は略すが、従来の山道から近代的な道路に改良されたのは明治になってからのことである。

日本が近代国家として急速に発展してきた明治中期以降、全国的に道路整備に努めている。人間の交通には馬や駕籠しかなく大半が徒歩であった状態から、道路事情の改良により、牛馬車・自転車・自動車へ急速な進

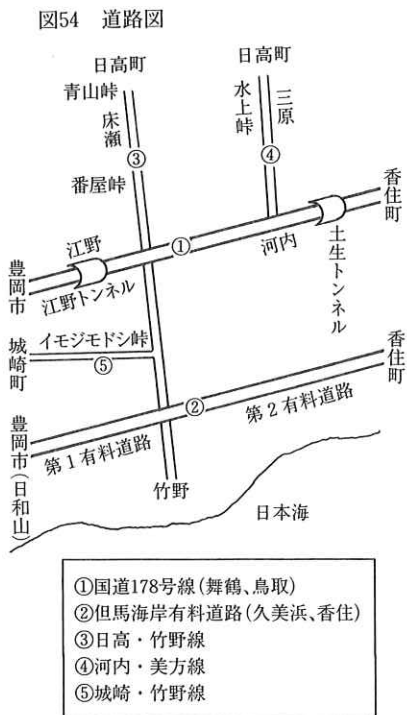


表157 車両数

車種	大正12年	昭和10年	11年	13年	14年	15年	16年
人力車	1						
牛馬車	8	4	5	4	4	4	4
荷積中車	76	4	69	20	19	25	23
荷積小車	7	6	4				
中農車				59	59	86	
自転車	44	102	133	138	146	175	184
自動車		3	6	5	7	6	6
自動自転車		1	1	2	2	5	5

展をみるのである。

(2) 江野こうのトンネル



写278 江野トンネル

竹野町の主要幹線道路として国道一七八号線と但馬海岸有料道路がある。国道一七八号線（京都府舞鶴市・鳥取県岩美町に至る延長一九八・六キロメートル）の途中、豊岡市江野から竹野町森本の中間にある江野トンネルは、『村会議事録』によると昭和十八年（一九四三）、北但地方振興道路改良工事として計画され、翌十九年十二月から導坑掘に着手し、同二十三年九月貫通して、同二十八年（一九五三）七月に開通した。

前に述べたように当時、竹野から町外への道路交通手段は山道を徒歩によるものであったが、この江野トンネルの開通により自動車で豊岡方面への外出ができるようになった。竹野浜から森本字梅田まで運行していた乗合バスも江野トンネルを通行するようになり住民に利便を与えた。

この国道一七八号線は隣接の豊岡市から竹野町の中央部、森本を経由して香住町へ通じているが、その途中に土生はぶトンネル（昭和三十六年（一九六一）五月十一日開通）があり一層便利になった。交通の発達は社会的及び経済的活動の発展のためには不可欠な条件であるが、『新江野トンネル概説書』には次のように記されている。

近年、交通量の増加や、車輛の大型化に伴い、江野トンネルが狭隘となり、さらに冬期の積雪時には坑口付近で交通の停滞を起こすなどの不便を生じ改良工事が必要とされていたが、昭和五十九年十月より同六十二年十二月の工期として、建設省によって新しい江野トンネルが完成した。幅員五・五メートルであったものから、幅員一メートル、二車線とするなど面目を一新した。

(3) 但馬海岸有料道路

豊岡市瀬戸と竹野町を結ぶ但馬海岸道路は昭和四十年（一九六五）七月一日有料道路として開通した。翌四十一年から自家用自動車や観光バスなどの乗入れが増加して、観光ブームが到来することになるのであるが、以下、本道路の建設経過の概略をみる。

竹野から田久日まで約五キロメートルの間を二つの大きな峠があり歩くと約二時間を要したが、大正三年（一九一四）ごろになると宇日から竹野までの現海岸道路の前身ともいえる海岸沿いの犬みちができて、以前より近道になったが道幅狭く特に冬季には危険が多かった。

昭和三十四年（一九五九）三月二十五日、宇日・田久日両地区の区長は連署して海岸道路敷設の嘆願書を竹野町議会へ提出している。同三十五年（一九六〇）七月二十二日には自衛隊の協力を得て北但海岸道路（竹野・田久日間）の改良工事が始まり、翌三十六年八月十四日



写279 マリンライン

には田久日・瀬戸間の改良工事に着工、同三十七年（一九六二）九月十五日、竹野・瀬戸間の北但海岸道路は全線開通し、同四十年舗装工事を終え、同年七月一日の開通をみた。

さらに同四十七年（一九七二）十二月一日には第二但馬海岸有料道路（竹野・香住町訓谷）が開通して、主要地方道路としての香住・久美浜線のうち竹野町内を通過する海岸沿線の道路が整備された。